

# 令和6年度病虫害発生予察情報 発生予報第4号

令和6年7月17日  
発表：福島県病虫害防除所

## 1 普通作物

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全域	やや早い	平年並	6月上旬～7月上旬の調査では置苗や本田での葉いもち発生は、見られていない(－)。 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件を満たす日は6月下旬以降周期的に出現している(+)。	上位葉に病斑がみられる場合は、薬剤防除を実施して穂への感染を防ぐ。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用する。 薬剤耐性菌の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさける。
	紋枯病	全域	平年並	平年並	天候予報(7月11日発表1か月予報)によると、向こう1か月の気温は高く、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている(+)。 前年の発生量は平年よりやや少～少なかった(－)。	窒素肥料の多用をさける。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が早いため、特に常発ほ場では注意する。
	イネツトムシ (イチモンジセセリ)	全域	－	やや少ない	7月上旬の発生ほ場割合は平年より低かった(－)。	直播栽培や葉色の濃いほ場では被害が大きくなりやすいため、注意する。 幼虫の虫齢が進むと薬剤の効果が落ちるため、発生を確認したら早めに薬剤防除を行う。
	斑点米 カメムシ類	全域	やや早い	多い	畦畔雑草での発生が多かった(+)。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)。	<b>防除時期や対策については、令和6年7月10日付け注意報・防除対策を参照する。</b>

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(－)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病虫害防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。

お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。

◆福島県では6月10日から9月10日まで令和6年度農薬危害防止運動を実施します◆  
農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。